

# 野菜畑作生産情報 第3号

平成27年6月18日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦とにんにくの収穫期が早まっています。  
適期収穫に努めましょう！

## 1 小麦

### (1) 生育状況

- ア 生育は、一部地域を除き平年を上回っている。
- イ 開花期は、ネバリゴシで10～14日程度、キタカミコムギで4日～7日程度早かった。
- ウ うどんこ病がみられる。

表-1 小麦の出穂期、開花期

場 所	年次	ネバリゴシ		キタカミコムギ	
		出穂期 (月日)	開花期 (月日)	出穂期 (月日)	開花期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石)	本 年	5/16	5/23	5/21	5/28
	平年差	(早6日)	(早7日)	(早3日)	(早4日)
	平 年	5/22	5/30	5/24	6/ 1
	前 年	5/20	5/27	5/23	5/29
野菜研究所 (六戸)	本 年	5/10	5/20		
	平年差	(早15日)	(早13日)		
	平 年	5/25	6/ 2		
	前 年	5/23	5/29		
つがる市 (旧木造)	本 年	5/10	5/18	5/12	5/23
	平年差	(早11日)	(早11日)	(早10日)	(早7日)
	平 年	5/21	5/29	5/22	5/30
	前 年	5/19	5/28	5/19	5/30
十和田市	本 年	5/10	5/19		
	平年差	(早14)	(早14日)		
	平 年	5/24	6/ 2		
	前 年	5/24	6/ 1		

- 注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験は、つがる市(旧木造)、十和田市は生育観測  
ほの調査成績。  
②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去9年間、野菜  
研究所の「ネバリゴシ」がH20～H26(24年産(出芽不良)を除く)の6年間、つがる市  
(旧木造)の「ネバリゴシ」が過去13年間、「キタカミコムギ」が過去19年間、十和田  
市の「ネバリゴシ」が過去12年間の平均値。  
③農林総合研究所は、消雪日が平年より5日遅い3月28日であった。

表－２ 小麦の生育状況（６月１０日現在）

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )
農林総合 研究所 (黒石)	本 年	67.5	7.3	368	80.5	7.6	287
	平年比	(90%)	(94%)	(89%)	(92%)	(87%)	(79%)
	平 年	75.4	7.8	414	87.1	8.7	362
野菜研究所 (六戸)	前 年	65.8	7.2	298	72.4	7.9	213
	本 年	95.0	8.8	722			
	平年比	(102%)	(106%)	(98%)			
	平 年	93.4	8.3	739			
	前 年	84.0	8.2	560			

注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほの調査成績。  
 ②平年値は、農林総合研究所が9年間、野菜研究所は、H20～H26(24年産(出芽不良)を除く)の6年間  
 ③農林総合研究所は、消雪日が平年より5日遅い3月28日であった。

## (2) 今後の農作業の留意点

### ア 刈取準備

- ① 生育が早まっているため、適期に刈り取りできるようコンバインや乾燥調製施設の準備を進める。
- ② 曇雨天が続く場合には、赤かび病の発生が懸念されるので、追加防除を行う。  
なお、薬剤は、収穫までの日数が使用基準以内のものを選択する。
- ③ 効率的な収穫作業に向け、排水対策を徹底する。

### イ 適期刈取

- ① 刈取適期は6月末～7月中旬頃となる見込み。枯れ上がりの早いほ場が見られるため、収穫が遅れないようにする。
- ② 収穫が早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび病や穂発芽の発生により品質が低下するので適期に刈り取る。
- ③ 刈取は、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が30%以下(穂を手でもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態)になった頃をめどに行う。
- ④ 倒伏や穂発芽した小麦は、品質に悪影響を及ぼすので、仕分刈りを行い未熟粒や被害粒が混入しないようにする。
- ⑤ 赤かび病は、被害粒の混入割合が1万粒に4粒程度を超えると流通できなくなるので、絶対に混入しないようにする。
- ⑥ 出穂期以降の積算温度による、主な地帯・品種別の刈取適期の見込みは次のとおり。

地 帯 名	ネバリゴシ	キタカミコムギ	ゆきちから
西 北	6/28～7/ 7	7/ 3～7/11	—
中 南	7/ 3～7/ 9	7/10～7/15	7/ 2～7/ 3
東 青	—	7/ 4～7/ 9	—
上 北	6/30～7/ 6	—	—
三 八	7/ 5～7/11	—	—

注) 出穂期以降の積算温度(ネバリゴシ：830～950℃、キタカミコムギ：900～1,000℃、ゆきちから：840～867℃)を基準に推定した目安。

## 2 大豆

### (1) 生育状況

ア は種作業は順調に進んでいる。

イ 出芽は、乾燥により一部で遅れが見られるものの概ね順調である。

表－3 大豆の出芽状況

場 所	年 次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石)	本 年	5/25	6/ 9
	(平年差)	(±0日)	(遅5日)
	平 年	5/25	6/ 4
前 年	5/23	5/31	
野菜研究所 (六戸)	本 年	5/15	5/25
	(平年差)	(早1日)	(早1日)
	平 年	5/16	5/26
前 年	5/15	5/27	

注) ①品種：おおすず。

②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去9年間、野菜研究所が過去6年間の平均値。

### (2) 今後の農作業の留意点

ア 中耕・培土は、1回目は本葉2～3枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2回目は本葉5～6枚の展開期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。

イ アブラムシ類や食葉性害虫の適期防除に努める。

ウ 長雨に備え、明きよを設置するなど排水対策を徹底する。

# 野 菜

## 1 にんにく

### (1) 生育状況

ア 球径、球重は平年を上回っている。

イ 収穫期は、平年より6～10日前後早まる見込みで、一般ほ場では収穫期となったほ場も見られる。

ウ 春腐病、さび病が見られるが、発病程度は軽い。

表－4 にんにくの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)	球 径 (mm)	球 重 (g)	りん片 分化期 (月日)	収穫期 (月日)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平比)	95.5 ( 98%)	13.3 (107%)	18.8 ( 89%)	63.8 (116%)	94.4 (125%)	4/13	—
	平年	97.5	12.4	21.3	55.0	75.8	11日早 4/24	— 7/ 6
	前年	88.0	12.4	16.5	57.9	78.6	4/27	7/ 7
藤 崎 町 福 島 (旧常盤村)	本年 (平比)	71.5 ( 87%)	7.0 ( 83%)	15.5 ( 75%)	56.6 (112%)	72.5 (117%)	4/24 ( 6日早)	—
	平年	82.6	8.4	20.6	50.5	62.2	4/30	7/ 2
	前年	79.2	7.4	17.1	42.3	46.7	4/30	7/ 3
七 戸 町 榎 林 (旧天間林村)	本年 (平比)	83.1 (101%)	8.5 (102%)	22.5 (109%)	67.1 (130%)	120.6 (184%)	4/19 ( 6日早)	—
	平年	82.4	8.3	20.7	51.8	65.4	4/25	6/30
	前年	83.5	7.9	19.8	60.2	80.8	4/27	6/25
田 子 町 日ノ沢	本年 (平比)	78.3 ( 96%)	8.3 ( 98%)	18.9 ( 95%)	67.5 (126%)	121.8 (175%)	4/18 ( 6日早)	—
	平年	81.6	8.5	19.8	54.1	69.7	4/24	6/30
	前年	80.1	8.7	18.4	64.1	103.0	4/23	6/27

注) ①平年：野菜研究所は平成17年～26年の10か年の平均値。

藤崎町は平成9年～26年の18か年の平均値。

七戸町は平成8年～26年（平成25年を除く）の18か年の平均値。

田子町は平成8年～26年の19か年の平均値。

②種子：藤崎町は白玉王（15～18g）。

七戸町は白玉王（11g）

田子町は白玉王（10～12g）

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。

藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

## (2) 今後の農作業の留意点

### ア 病害虫の適期防除

収穫時に1枚でも多く生葉を残すことが球の肥大促進と割れ玉の発生軽減につながるため、最後まで病害虫防除を徹底する。

葉枯病・黄斑病は、収穫間際に一気に広がることもあるため、早期発見と早期防除に努める。

### イ 適期収穫

試し掘りを早めに行い、盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平となる時期に収穫する。

### ウ イモグサレセンチュウの防除対策

イモグサレセンチュウが発生しているほ場では、りん球への進入を抑制するため

①早期収穫、②速やかな根切り、③根のほ場外への搬出と適正処分、④速やかな強制乾燥に努める。

イモグサレセンチュウの発生を確認するため、種子用のにんにく20球程度を網袋に入れて1か月程度自然乾燥させた後、りん片の皮をむいて発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認する。異常がみられた時は、指導機関に診断を依頼する。

被害拡大を防止するため、ほ場間の移動の際は機械等の洗浄を徹底する。

### エ 適正乾燥

① 乾燥用の暖房機の温度設定は35℃とし、にんにく付近の温度が38℃以上にならないよう管理する。

② 乾燥仕上がりは重量が7割程度に減少した頃で、根部をナイフ等で削り、盤茎部に爪がたたないぐらいの硬さであることを確認する。

③ 建築用水分計を活用する場合は、重量が7割程度に減少した時の盤茎部の水分測定値「10～15%」を乾燥仕上がりの目安とする。ただし、テンパリング乾燥の場合は、盤茎部の水分測定値と全体の水分状態の関係が通常乾燥とは異なることから、重量比による従来の判断方法と併用して総合的に判断する。詳細については指導機関に相談する。

### オ 乾燥仕上がり後の管理

乾燥仕上がり後は、出荷や冷蔵庫への入庫までの期間に、湿気が戻らないようにシート等で湿気を遮断するほか、一時保管中の温度が高温にならないよう適正に管理する。

## 2 ながいも

### (1) 生育状況

上北地域では、植付作業は例年より10日以上早く進み、5月中旬でほぼ終了した。乾燥の影響で萌芽後の生育は緩慢となっている。

三八地域でも植付作業は例年より早く進み、終盤となっている。

ナガイモコガ、アブラムシ類の発生が見られる。

### (2) 今後の農作業の留意点

#### ア 追肥

追肥の開始時期が遅れると収量や品質低下の原因となるので、試し掘りにより新しいもの生育状況を確認して適期に行う。

表-5 ながいもの追肥方法

	早植栽培 (頂芽付1年子)	普通栽培
追肥開始時期の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植付後60日前後 (6月下旬~7月上旬)</li> <li>・ 新しいも長は5cm前後、つる長は150cm 前後 (ネットの半分程度に到達)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 種子の養分が少なくなる植付後45~55日頃 (7月中旬頃)</li> <li>※ 切りいもの場合は植付後55~65日頃</li> <li>・ 新しいも長10~15cm、つる長200~220cm (ネット8分目~ネット上部到達)</li> <li>※ 低温年では、新しいも長を目安にする。</li> </ul>
1回当たりの追肥量	・ 10a 当たり窒素成分で5kg以内とする。	
追肥の間隔及び回数	・ 6月下旬から8月上旬の間に、12~14日間隔で3回	・ 7月中旬から8月中旬の間に、10日程度の間隔で3回

※ ウイルスフリー種子を使用した場合や地力が高いほ場に作付けした場合は、1回当たりの追肥量を減らす。また、下位節からの側枝の発生が多く、生育が旺盛な場合は3回目の追肥を減量する。

#### イ 病害虫の適期防除

葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生に注意し、早期防除に努める。

採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

表-6 アブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生時期

栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		ナガイモコガ幼虫	葉渋病
			発生初め	発生盛期	発生初め	発生初め
早植栽培	5/上	5/下	5/下	6/中~下	6/中	7/中
普通栽培	5/下	6/下	6/下	7/中	7/中	8/下

### 3 春夏にんじん（トンネル栽培）

#### （1）生育状況

ア 葉長は、乾燥により平年を下回ったが、葉数及び地下部の生育は平年並となっている。

イ 病害虫の発生は見られない。

表－7 春夏にんじんの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
六 戸 町 犬落瀬	本年	3/16	42.5	8.0	16.7	34.4	76.9
	(平年比)	2日早	(83%)	(95%)	(96%)	(103%)	(102%)
	平年	3/18	51.5	8.3	17.4	33.3	75.5
	前年	3/28	56.4	7.7	16.6	35.3	81.1

注) ①平年：平成17年～26年の10か年の平均値。

②品種：彩誉7（平成17～18年は「彩誉」、平成19～20年は「ねぶたキャロ」、平成21～26年は「彩誉」）

#### （2）今後の農作業の留意点

葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。

### 4 ばれいしょ

#### （1）生育状況

ア 草丈は平年を上回っている。

イ 着蕾期は平年より15日早い5月18日、開花期は13日早い6月1日となった。

ウ 病害虫の発生は見られない。

表－8 ばれいしょの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本)
三 沢 市 三 沢	本年	3/29	4/28	5/18	6/ 1	74.0	2.2
	(平年比)	14日早	8日早	15日早	13日早	(131%)	(76%)
	平年	4/12	5/ 6	6/ 2	6/14	56.4	2.9
	前年	4/14	5/ 6	5/28	6/12	63.4	2.8

注) ①平年：平成15年～19年、平成21年～24年、平成26年の10か年の平均値。

②萌芽期の平年：平成15年～17年、平成21年～24年、平成26年の8か年の平均値。

③品種：マークイン

#### （2）今後の農作業の留意点

ア 疫病の予防防除を徹底する。

イ 早出し栽培（マルチ栽培）では6月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。また、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るなどいもの表皮のコルク化を進めてから収穫する。

ウ ジャガイモシストセンチュウの症状（日中の葉の萎れや下葉の黄化等）を発見したら、指導機関へ診断を依頼する。

## 5 ごぼう

### (1) 生育状況

- ア 草丈、葉数は平年を上回っている。
- イ ハモグリバエ類、アブラムシ類が散見される。

表－9 ごぼうの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 三 沢	本年 (平年比)	4/19 9日早	11.8 (115%)	2.4 (117%)
	平年	4/28	10.2	2.1
	前年	5/ 6	9.3	1.6

注) ①平年：平成17年～26年の10か年の平均値。  
②品種：柳川理想。平年値は過去11か年の平均値。

### (2) 今後の農作業の留意点

除草、病害虫防除を適期に行う。

## 6 メロン

### (1) 生育状況

- ア 生育は概ね順調である。
- イ 開花は、天候が良く良好である。
- ウ アブラムシ類の発生が見られる。

表－10 メロンの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	主づる 長 (cm)	主づる の葉数 (枚)
つがる市 木造	本年	5/ 6	168.6	25.3
	前年	5/ 8	184.5	22.9

注) ①平年：前年から担当農家を変更したため、平年値はない。  
②品種：タカミ。

### (2) 今後の農作業の留意点

- ア トンネルの開閉をこまめに行うなど温度管理を徹底して生育の促進を図る。特に交配期は12℃以下の低温が続くと着果率が劣るので、最低気温15℃前後を目安に管理する。
- イ 交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。
- ウ アブラムシ類、アザミウマ類の発生に注意し、適期に防除を行う。



## 7 ネギ

### (1) 生育状況

- ア 生育は順調で、草丈、茎径は平年並から上回っている。
- イ 一部のほ場では、乾燥により生育は停滞気味となっている。
- ウ ネギコガ、ネギハモグリバエが散見される。

表-11 ネギの生育状況（6月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)
八 戸 市 是 川	本年	1/10	3/20	71.3	17.3
	(平年比)	8日早	8日早	(103%)	(114%)
	平年	1/18	3/28	69.5	15.2
	前年	1/10	4/10	78.0	15.0
十 和 田 市 羽 立	本年	3/11	4/29	41.5	8.6
	(平年比)	23日遅	2日早	(104%)	(100%)
	平年	2/16	5/ 1	39.9	8.6
	前年	2/28	4/24	47.9	10.9

注) ①平年：八戸市は平成15年～26年の12か年の平均値。  
 十和田市は平成17年～26年の10か年の平均値。  
 ②品種：夏扇パワー平年値は過去9か年の平均値。

### (2) 今後の農作業の留意点

- ア 草勢の維持に努め、生育に応じて培土や追肥を適期に行う。
- イ 主要病害のべと病の発生に注意し、蔓延しないよう防除を徹底する。
- ウ ネギコガ、ネギアザミウマの発生に注意し、適期に防除を行う。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 ([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報検索システム ([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))

---

連 絡 先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ  
 県庁内線 3 4 6 2  
 直 通 0 1 7 - 7 3 4 - 9 4 8 1

---